

令和3年度 学校評価シート

学校名：県立はまゆう支援学校 学校長名：小原 美佐香 印

めざす学校像 育てたい生徒像	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の発達の段階や障害の特性等に基づき、個々の教育的ニーズに対応した指導・支援を行うとともに、保護者や地域の期待に応え信頼される学校 自立と社会参加を目指し、心ゆたかにたくましく生きようとする児童生徒
-------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

本年度の重点目標 (学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	1 児童生徒一人ひとりの実態に応じた授業の充実を図る。
	2 保護者との信頼を深め、安心・安全な教育環境の整備を推進する。
	3 地域の人々や地元企業等との連携を深め、協働できる取組を推進する。
	4 新しい統合校における教育活動について、組織的に取り組む。

中期的な目標	<ul style="list-style-type: none"> 南紀支援学校との統合に向け、組織的に新しい学校づくりを進める。 新学習指導要領の理念を踏まえた学校教育力の向上を図る。 「きのくにコミュニティ・スクール(学校運営協議会)」の実効性を高め、地域とともに歩む学校づくりを目指す。
--------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学校評価の結果と改善方法の公表の方法	<ul style="list-style-type: none"> 本校ホームページにて、その概要を公表する。
--------------------	-------------------------------------------------------------------------

達成度	A	十分に達成した。(80%以上)
	B	概ね達成した。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。(40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
 4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自己評価					年度評価(3月4日現在)	
重点目標					年度評価(3月4日現在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	「わかって動ける授業」を視点を毎週1回15分の時間を確保し授業改善に取り組んでいる。また、「学校全体で取り組むポジティブな行動支援を主題にした研究活動に取り組む、今年度は公開実践報告会を開催する予定である。新学習指導要領の趣旨や内容について、理解を深めている。	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な授業改善ができていないか。 全校研修の取組と日常の授業を関連づけて授業改善を行っているか。 新学習指導要領のポイントを押さえた授業実践ができていないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎週1回の「15分授業改善」の時間を確保する。 テーマに基づく研究を学校全体で取り組む。 新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善の時間を確実に実施し、効果的に活用している。 全校研修の成果や到達点が全教職員で共有できている。 指導内容を単元で整理した年間指導計画を授業づくりに活用している。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間通じて、15分授業改善に週1回取り組んだ。 外部講師を招聘し、年2回の授業研修を実施した。 統合における教育課程の充実をテーマに、両校合同で研修を実施し、「教科等を合わせた指導」に含まれる教科について、各学部で分析し検証を行った。 	B
2	新型コロナウイルス感染症をはじめとして危機の際の具体的な対応の共有が必要である。また、地震発生時の対応など、危険等発生時対処要領の精査と共有が課題である。児童生徒の特性等から起こりえる危険性を想定し、未然防止への意識の向上が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員が、リスクマネジメントを意識し、未然防止に取り組んでいるか。 全教職員でマニュアルが共有され、校内安全体制ができていないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス等関連情報を提供し、校内での感染予防に努める。 危険等発生時対処要領の定期的な確認と共有を図る。 アクシデントやインシデントについて学部等で分析し、職員会議等で報告する。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内感染防止対策を更新し、学校全体で周知し、感染防止に努めている。 対処要領の内容が教職員に周知できている。 事故等の状況と原因を理解することで、事故予防に結びついた事例がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内感染防止対策を随時更新し、職朝等で周知を行った。定期的に委員会を開催し、地域の状況に即した校内の取組を検討し、全教職員と情報の共有を行った。 12月の震度4の地震の発生後、再度避難マニュアルを見直し、それに基づいた避難訓練を実施し、検証を行った。 	B
3	本校周辺地域の学校間交流学習や作業学習として地域の店舗や公共施設での活動等を行っている。しかし、本校を周知する機会が少なく、地域への情報発信も少ない。「はまゆうサポーターズクラブ」を通して、地元企業等関係者への本校教育活動の周知と進路指導等への協力を依頼している。知的・聴覚Coが、小中学校等からの要請に応じて相談・支援を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> 本校の教育活動が地域住民に理解され、取組に関心を持っているか。 本校児童生徒や卒業生が地域で豊かに生きるための手立てが講じられているか。 センター的機能が効果的に発揮できているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 地元紙を含め、HP等により、本校の教育活動を積極的に地域に発信する。 地域人材を外部講師として招聘する。 サポーターズクラブに参画する事業所への情報提供を行う。 地域の特別支援教育を推進するための情報を本校ホームページや電子メールにて発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間20回以上の情報発信ができていない。 地域に住む外部講師を各学部年間3回以上招聘している。 年間10回以上の情報提供を行っている。「進路便り」等 校区内小・中・高等学校に対して、年間10回以上の情報発信を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> HPについて、支援だよりを年間7回、「校長室通信 はまゆうの風」を16号掲載し、教育活動に関する情報を定期的に発信することができた。また、地元紙でも、各学部の教育活動やサポーターズクラブについて掲載していただくよう働きかけ、発信することができた。 作業学習、進路学習、総合的な学習、防災学習等で地域の外部講師を招聘した。 	B
4	南紀支援学校との統合に向けて、統合校の学校運営体制学校組織等の課題を解決し整備するとともに、教育課程を編成することが必要である。また、統合に向けた取組について保護者に情報提供し、共通理解を図ることが必要である。	<ul style="list-style-type: none"> 統合校の学校運営等において課題を明確にし解決に向けて検討しているか。 統合校の教育課程の編成において、両校で組織的、計画的に取り組んでいるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的に両校の合同会議を実施し、検討する。 各校の教育課程をもとに統合校の教育課程を編成する。 統合校の学校運営等について両校で連携し、保護者に説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 両校で計画的に会議を設定し、検討している。 各部門の教育課程を編成し、全教員で共有している。 保護者に対して機会を捉えて情報を提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> オンラインを活用し両校合同職員会議を年間3回実施した。統合校の学校運営組織、校時について協議を進めることができた。 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、両校での合同保護者説明会が実施できなかった。 	B

学校関係者評価	
令和4年3月4日 実施	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> 学校統合に係る説明等が足りない気がするという保護者からの意見もあり、次年度は、統合に向けて、見えやすさが必要であり、内覧会、説明会等に取り組む必要がある。また、現在、教室環境においても、十分ではないので、新しい学校を活用し、統合に結びつくような取組が必要である。 昨年度に比べると、評価が上がっている。子どもたちも意識が上がっており、安全安心が大事でよかった。 教職員のアンケートを見ると、自分たちでチェックする機能が働いている。お互いにフィードバックして、よりよい方向に結びつけることが大切である。 児童生徒が、地域で暮らしていくためにどう地域を巻き込んで、どのような手立てをしていけるのか、地域の支援団体からも広げていくよう連携することが今後の課題である。 学校としては、様々な取組を行っているが、地域の中では知られていない。もっと、地域で、広報などでアプローチすることが大事である。学校だよりを地域へ配付するなど、町と連携して、広報を一緒にすることも考えられる。 生徒の満足度が高いのは素晴らしい。コロナの影響で通常のイベントができない中、教職員が工夫した結果と思う。福祉関係では、この地域の保護者の選択肢が増えている。今春にも、いくつかの事業所がオープンする。手をつなぐ先が、増えている中で、進路に関する研修を行うことができず残念である。児童サービスと学校を併用し、連携しながら行っているが、今後福祉サービス等の活動をお知らせすることも大事である。 	